

## 7 生活科学科共通科目



授業科目	生活科学概論		担当者	多田 司 浅海 真弓				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活を科学的視点で把握し、生活の諸課題を解決するための知識や力を身につける。</p> <p>【概要】衣服・食・住まいの機能や将来の生活費、消費者問題など、毎回提示された課題について各自考えながら、生活全般についての理解を深める。また、現代の食生活や衣生活の現状と課題を把握し、その課題解決のために生活者としてできることは何か?についても考えていく。(第1回～第8回:多田担当, 第9回～第15回:浅海担当)</p> <p>【到達目標】生活者の視点から、様々な生活課題について科学的に考える力を養う。そして、解決に向けて主体的に行動し、豊かな生活を創造していくことを目標とする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 山本直成, 浦上智子, 中根芳一共著『生活科学 (第6版)』オーム社 「生活する力を育てる」ための研究会編『人と生活』建帛社</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス - 生活を科学する?</p> <p>第2回 食生活の科学1 - 自分の食生活を見直してみよう</p> <p>第3回 食生活の科学2 - 栄養の面から健康的な食生活を考える</p> <p>第4回 食生活の科学3 - 安全な食生活のあり方について</p> <p>第5回 食生活の科学4 - 食品添加物について考える</p> <p>第6回 生活環境の科学1 - 生活における科学技術の役割と弊害について</p> <p>第7回 生活環境の科学2 - 生活に及ぼす化学物質の影響について・その1</p> <p>第8回 生活環境の科学3 - 生活に及ぼす化学物質の影響について・その2</p> <p>第9回 衣生活の現状1 - 戦後の衣生活の変化を知り、現在の自分の衣生活について考える</p> <p>第10回 衣生活の現状2 - 衣服生産の背景を知り、衣服を作る人々の労働環境について考える</p> <p>第11回 住まいの機能 - 住む家がなくなったら困ることについて考える</p> <p>第12回 将来の生活を設計する1 - 25歳一人暮らしの生活費について考える (理想の生活パターンと改善)</p> <p>第13回 将来の生活を設計する2 - 25歳一人暮らしの生活費について考える (生活を維持するための手段や工夫)</p> <p>第14回 自立した消費者になるために - 消費者の権利と責任について考える</p> <p>第15回 持続可能な社会に向けて - SDGs やエシカル消費について考える</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示 (予習・復習用のプリント配布)							
成績評価の方法	多田担当分 (50%) : レポート (40%) + 講義への取り組み状況 (10%) 浅海担当分 (50%) : ワークシート (25%) + レポート (25%)							
実務経験について	なし							

授業科目	生活経営学		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	生活1年, 食栄2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活経営とは何かを含め、生活を営む上での諸問題を理解し、自立のための生活経営力の獲得を目指す。</p> <p>【概要】自分と他者の関わりを捉えなおし、個人と家庭、社会をとりまく環境や問題を抽出し理解する。まず生活経営の基礎事項や最新情報を正確に把握する。それらを援用してライフステージごとの課題を各自整理しその解決方法を考える。</p> <p>【到達目標】真の自立と共生のために必要なスキルやマネジメント力が身につくことを目指す。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 随時紹介</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション: 講義概要と進め方</p> <p>第2回 基礎事項1: 生活経営学と生活を考える</p> <p>第3回 基礎事項2: 家族と家庭を考える</p> <p>第4回 基礎事項3: 男女の役割を考える</p> <p>第5回 基礎事項4: 労働を考える</p> <p>第6回 基礎事項5: 経済と消費を考える①</p> <p>第7回 基礎事項6: 経済と消費を考える②</p> <p>第8回 基礎事項7: 家計を考える</p> <p>第9回 基礎事項8: 子どもと教育を考える</p> <p>第10回 基礎事項9: 高齢社会を考える</p> <p>第11回 応用事項1: 地域を考える</p> <p>第12回 応用事項2: 環境を考える</p> <p>第13回 応用事項3: 政治と社会を考える</p> <p>第14回 応用事項4: 自立を考える</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業での活動内容 (30%)							
実務経験について	なし							

(注) 生活科学専攻は教職必修

授業科目	人間関係論	担当者	飯田 都
	〔履修年次〕 生活1年, 食栄2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位	授業外対応	適宜対応(要予約)
		〔必修/選択〕	必修(生活〔授業形態〕 (注) 選択(食栄)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】理論的な見地から人間関係を理解し,自分自身を取り巻く人間関係について振り返る。</p> <p>【概要】私たち人間は他者との関わりなしには社会生活を送ることができない。しかし,一人一人が異なる価値観と対人態度を持つ以上,なかなか円滑には良好な関係を築くのは難しいものである。本講義においては,家族から職場に至るまで,様々な場面で人間関係についての基礎的な知見を概観するとともに,体験的なワークを通し,コミュニケーションのスキルを学んでいく。</p> <p>【到達目標】①人間関係に関する基礎知識を理解する。②人間関係のスキルを体験的に理解することを通し,自身の対人関係やコミュニケーションの特徴について理解を深める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 服部祥子(2003).『人を育む人間関係論 ―援助専門職者として,個人として―』 医学書院</p> <p>(2) 岡堂哲雄編(2000).『人間関係論入門 ―ナースのための心理学―』金子書房</p> <p>谷口弘一・福岡欣治編著(2006).『対人関係と適応の心理学 ―ストレス対処の理論と実践―』 北大路書房</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 人間関係論の視点</p> <p>第3回 自分と他者の関係性</p> <p>第4回 他者とのコミュニケーション</p> <p>第5回 人間関係のスキルトレーニング</p> <p>第6回 人間関係の発達</p> <p>第7回 人間関係に関する基礎知識:家族</p> <p>第8回 人間関係に関する基礎知識:夫婦</p> <p>第9回 人間関係に関する基礎知識:親子</p> <p>第10回 人間関係に関する基礎知識:教師と生徒</p> <p>第11回 人間関係に関する基礎知識:職場</p> <p>第12回 対人態度</p> <p>第13回 人間関係と集団のダイナミクス</p> <p>第14回 実習体験:援助的コミュニケーション</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業内課題 (50%) ,試験 (50%)		
実務経験について			

(注) 生活科学専攻は教職必修

授業科目	社会福祉論	担当者	石踊 紳一郎
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位	授業外対応	授業終了時
		〔必修/選択〕	選択 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会福祉とは何か?について,社会福祉の歴史的展開,法と行財政,ソーシャルワーク,地域ケアシステムなど,実践の中から総合的に理解する。</p> <p>【概要】1. 日本及びヨーロッパの社会福祉の歴史的変遷を概観する。 2. 社会福祉を形成する領域・体系の全体像を理解する。 3. 社会福祉のそれぞれの領域での実践活動を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 社会福祉の歴史,制度,政策を理解し,これからの社会福祉の方向性を探ることができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「新社会福祉とはなにか 第4版」 大久保秀子著 中央法規出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 社会福祉とは何かについて学ぶ。</p> <p>第2回 日本・ヨーロッパにおける社会福祉の歴史的展開について学ぶ。</p> <p>第3回 社会福祉基礎構造改革について学ぶ。</p> <p>第4回 契約制度における福祉サービス提供の現状と課題について学ぶ。</p> <p>第5回 ソーシャルワークについて理解する。</p> <p>第6回 生活保護制度について学ぶ。</p> <p>第7回 児童福祉と次世代育成の展開について学ぶ。</p> <p>第8回 障がい者の自立と福祉について学ぶ。</p> <p>第9回 高齢者福祉の歴史について学ぶ。</p> <p>第10回 介護保険制度について学ぶ。</p> <p>第11回 ケアマネジメントの実践について学ぶ。</p> <p>第12回 身体拘束適正化・虐待防止について学ぶ。</p> <p>第13回 高齢者の認知症について理解する。</p> <p>第14回 地域福祉の展開と地域包括ケアシステムを理解する。</p> <p>第15回 これからの社会福祉を探る。</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習では該当する箇所をテキストで確認する。復習は学んだ内容を資料等で読み直す。		
成績評価の方法	授業ごとに期間中に3回程度的小論文30% 学期末テスト(記述)70%		
実務経験について	社会福祉法人理事長, 高齢者福祉施設の施設長, 非常勤講師(大学)		